

Canon

ファミリーコピー FC 20

ご愛用の手引き

ご使用前に、必ずこのご愛用の手引きをお読みください。
将来いつでも使用できるように、大切に保管してください。








はじめに

このたびは《キヤノンファミリーコピーFC20》をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございました。

ご使用の前に必ずこの「ご愛用の手引き」をお読みください。また、本機をいつまでも快適にお使いいただくために「ご愛用の手引き」は大切に保管してください。

この「ご愛用の手引き」内のマークについて

-  **警告** ● 取扱いを誤った場合に、死亡または重傷を負う恐れのある警告事項が書かれています。安全に使用していただくために、必ずこの警告事項をお守りください。
-  **注意** ● 取扱いを誤った場合に、傷害を負う恐れや物的損害が発生する恐れのある注意事項が書かれています。安全に使用していただくために、必ずこの注意事項をお守りください。
-  **お願い** ● 操作上必ず守っていただきたい重要事項や禁止事項が書かれています。機械の故障や損傷を防ぐために、必ずお読みください。
-  **重要** ● 操作上の重要事項や禁止事項などが書かれています。誤った操作をしないために必ずお読みください。
-  **参考** ● 操作の参考となることや補足事項が書かれています。お読みになることをおすすめします。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づく第二種情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

『ご愛用の手引き』に従って正しい取り扱いをしてください。



当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたOA機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品はコンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のOA機器で、それぞれの基準ならびにマーク（ロゴ）は参加各国の間で統一されています。

目次

ご使用の前に	▲ 安全にお使いいただくために 4
	設置場所のご注意 9
	取扱い上のご注意 10
	設置手順 11
各部のなまえとはたらき	14
コピーのとりかた	基本的なコピーのとりかた 16
	コピーワンポイントアドバイス 18
	・ OHPフィルムにコピーするとき 18
	・ 厚い本や大きな原稿をコピーするとき 18
	両面コピーのとりかた 19
消耗品の交換とその保管	カートリッジの交換 20
	定着器クリーナーの交換 21
	新しいカートリッジとの交換目安 22
	カートリッジの取扱い・保管 22
	コピー用紙 23
こんなときには	P が点灯したとき（紙補給／紙送り点検） 24
	8V が点滅したとき（紙づまり） 25
	・ 給紙ローラーの清掃 28
	・ 除電針の清掃 29
	8V が点灯したとき（E表示） 30
	機械が正常に動作しないとき 31
	・ 機械が動かない 31
	・ 画像が出ない 31
	きれいなコピーがとれないとき 32
	・ コピー面が帯状に汚れる 32
	・ カートリッジ帯電線の清掃 32
	・ ファイバーレンズの清掃 33
	・ コピー面に白スジ／帯状に薄くなる 34
	・ 転写ガイドと本体帯電線の清掃 35
	・ オート濃度モード設定時コピー面全体 が薄すぎる／濃すぎる 36
	・ コピー面が黒くなる 36
	修理をご依頼されるときは 37
日常のお手入れ	日常の清掃 39
	FC20の仕様 40
	付属品・消耗品 40
	保証および保守サービス 41
	コピー禁止事項 42

ご使用前に

⚠️ 安全にお使いいただくために

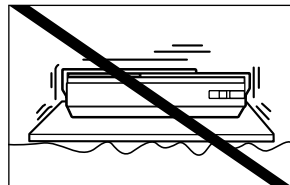
設置について

⚠️ 警告

- アルコール、シンナーなどの引火性溶剤の近くに設置しないでください。引火性溶剤が機械内部の電気製品などに接触すると、火災や感電の原因になります。

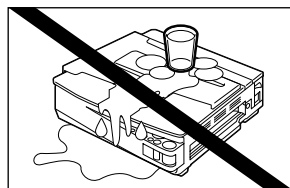
⚠️ 注意

- ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所や振動の多い場所に設置しないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因になることがあります。

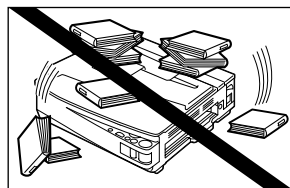


- 機械には通気口がありますので、壁や物でふさがないように設置してください。必ず壁から10cm以上離してください。通気口をふさがれると機械内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。

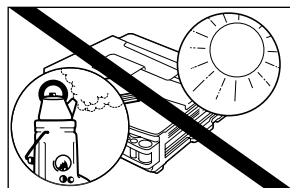
- 機械の上に次のような物を置かないでください。これらが機械内部の電気製品などに接触すると、火災や感電の原因になることがあります。
 - ・ ネックレスなどの金属物
 - ・ コップ、花瓶、植木鉢など、水や液体が入った容器これらが機械内部に入った場合は、直ちに電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてお買い求めの販売店または担当サービスに連絡してください。



- 機械の上に重い物をのせないでください。置いたものが倒れたり、落ちてけがの原因となる場合があります。



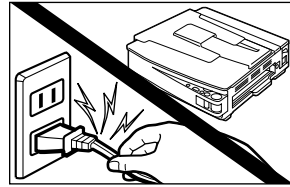
- 機械を次のような場所に設置しないでください。火災や感電の原因になることがあります。
 - ・ 湿気やほこりの多い場所
 - ・ 直射日光のあたる場所
 - ・ 高温の場所
 - ・ 火気に近い場所



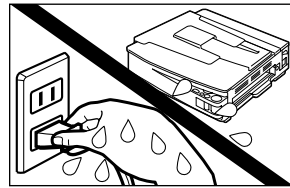
電源について

⚠ 警告

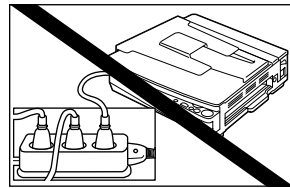
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重いものをのせたり、電源コードをひっぱったり、無理に曲げたりしないでください。傷ついた部分から漏電して、火災や感電の原因になります。



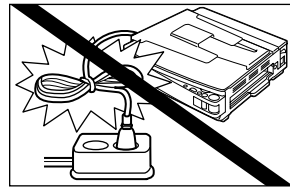
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因になります。(→P.30)



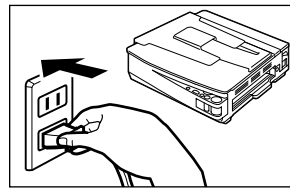
- タコ足配線は行わないでください。火災や感電の原因になります。



- 電源コードを束ねたり、結んだりしないでください。火災や感電の原因になります。

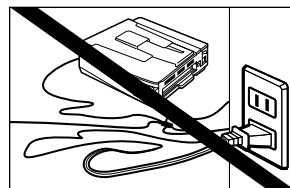


- 電源コードはコンセントの奥までしっかりと差し込んでください。しっかり差し込まないと、火災や感電の原因になります。



- 同梱されている電源コード以外は使用しないでください。火災や感電の原因になります。

- 原則的に延長コードは使用しないでください。また、延長コードの多重配線はしないでください。火災や感電の原因になることがあります。やむを得ず延長コードを使用する場合は、100V 15A以上のものを使用してください。使用時は束ねをほどき、電源コードと延長コードの接続が確実になるように奥まで電源プラグを差し込んでください。

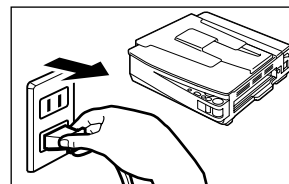


- アース線を接続するときは、以下の点にご注意ください。
 - [アース線を接続してよいもの]
 - ・コンセントのアース端子
 - ・接地工事（第1種～第3種）が行われているアース端子
 - ・銅棒65cm以上地中に埋めたもの
 - [アース線を接続してはいけないもの]
 - ・水道管…配管の途中でプラスチックになっている場合があり、その場合にはアースの役目を果たしません。ただし、水道局がアース対象物として許可した水道管にはアース線を接続できます。
 - ・ガス管…ガス爆発や火災の原因になります。
 - ・電話線のアースや避雷針
 - …落雷のときに大きな電流が流れ、火災や感電の原因になります。

⚠ 注意

- AC100V以外の電源電圧で使用しないでください。火災や感電の原因になることがあります。

- 電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引っばると、電源コードの芯線の露出、断線など電源コードが傷つき、その部分から漏電して、火災や感電の原因になることがあります。（→P.30）

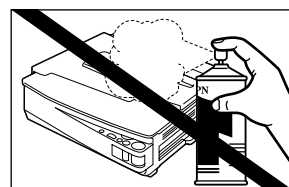
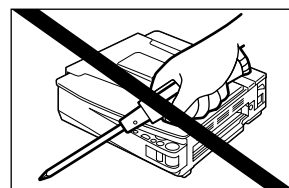


- いつでも電源プラグが抜けるように、電源プラグのまわりには物を置かないでください。非常時に電源プラグを抜けなくなります。
- アース線を接続してください。アース線を接続しないで万一漏電した場合は、火災や感電の原因になることがあります。

取扱いについて

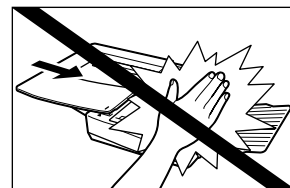
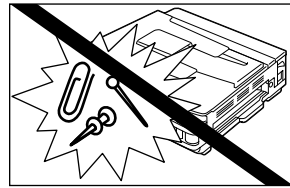
⚠ 警告

- 機械を分解したり、改造しないでください。内部には高温・高圧の部分があり、火災や感電の原因になります。
- 異常な音が出たり、煙が出たり、熱が出たり、変なにおいが出た場合は、直ちに電源スイッチを切り、電源プラグを抜き、お買い求めの販売店または担当サービスにご連絡ください。そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。
- 機械の近くでは、可燃性のスプレーなどは使用しないでください。スプレーのガスが機械内部の電子部品などに接触すると、火災や感電の原因になります。
- 機械を移動させる場合は、必ず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてから行ってください。電源コードが傷つき、火災や感電の原因になります。



▲ 注意

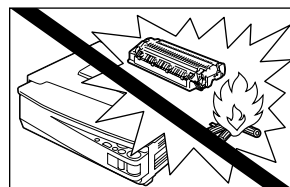
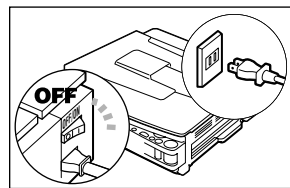
- 機械内部にクリップやホッチキスの針などの金属片を落とさないでください。また、水、液体や引火性溶剤（アルコール、ベンジン、シンナーなど）をこぼさないでください。これが機械内部の電気部分に接触すると、火災や感電の原因になることがあります。これらが機械内部に入った場合は、直ちに電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてお買い求めの販売店または担当サービスにご連絡ください。
- 原稿台カバーは、手を挟まないように静かに閉じてください。けがの原因になることがあります。（→P.17）
- 原稿台よりも大きな原稿をコピーする場合は、原稿のはみ出した部分にご注意ください。原稿が機械の一部に引っかかって破損する恐れがあります。
- コピー中は原稿台部分に触れないでください。移動している原稿台に挟まれて、けがの原因になることがあります。（→P.17）
- 夜間等で長時間ご使用にならない場合は、安全のため電源スイッチを切ってください。また、連休等で長期間ご使用にならない場合は、安全のため電源プラグを抜いてください。
- 機械を持ち運ぶときは、指定された場所を持ってください。機械を落として、けがの原因になることがあります。



保守／点検について

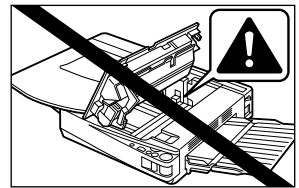
▲ 警告

- 清掃のときは、電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いてください。火災や感電の原因になります。（→P.39）
- 清掃のときは、中性洗剤を含ませて固く絞った布を使用してください。アルコール、ベンジン、シンナーなどの引火性溶剤は使用しないでください。引火性溶剤が機械内部の電気部品などに接触すると、火災や感電の原因になります。（→P.39）
- 使用済みカートリッジを火中に投げないでください。カートリッジ内に残ったトナーに引火して、やけどや火災の原因になります。（→P.20）



⚠ 注意

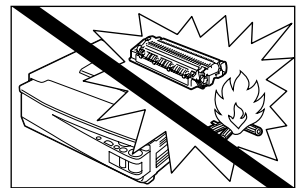
- 機械内部には定着器など高温、高圧になる部分があります。紙づまりの処理など内部を点検するときは、これらの部分に触れないように点検してください。やけどや感電の原因になることがあります。(→P.21)
- 紙づまりの処理など内部を点検するときは、ネックレス、プレスレットなどの金属物が機械内部に触れないように点検してください。やけどや感電の原因になることがあります。(→P.25)
- 紙づまりでコピー用紙を機械内部から取り除くときは、紙づまりしているコピー用紙の上ののっているトナーが衣服や手に触れないように取り除いてください。衣服や手が汚れます。衣服や手が汚れた場合は、直ちに水で洗い流してください。温水で洗うとトナーが定着し、よごれがとれなくなることがあります。(→P.25)
- 紙づまりでコピー用紙を機械内部から取り除くときは、紙づまりしているコピー用紙の上ののっているトナーが飛び散らないように、丁寧に取り除いてください。トナーが目や口などに入ることがあります。トナーが目や口に入った場合は、直ちに水で洗い流し、医師と相談してください。(→P.25)
- コピー用紙を補給するとき、紙づまりを取り除くときは、コピー用紙の端で手を切ったりしないように、注意して扱ってください。(→P.16、25)



消耗品について

⚠ 警告

- カートリッジを火中に投じないでください。カートリッジ内部にあるトナーに引火して、カートリッジが燃えて、やけどや火災の原因になります。(→P.40)
- カートリッジ、コピー用紙は火気のある場所に保管しないでください。トナーやコピー用紙に引火して、やけどや火災の原因になります。



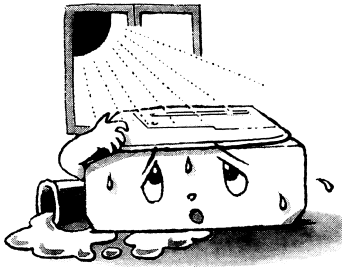
⚠ 注意

- カートリッジなどの消耗品は幼児の手が届かないところへ保管してください。もしカートリッジ内のトナーを飲んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

設置場所のご注意

■直射日光の当たらない涼しい所

- 日光の当たる窓際や、ストーブ・加湿機の前など高温多湿になるところには置かないでください。また急激な温度・湿度の変化は避けてください。
- 望ましい環境：温度20℃～25℃
湿度40%～70%



■換気の良いところ

- ホコリの多い場所やアンモニアガスなどの発生する場所は避けてください。
- 複写機の使用中はオゾンが発生いたしますが、その量は人体に影響を及ぼさないレベルです。但し、換気の悪い部屋で長時間使用すると、大量にコピーする場合には臭気が気になることもありますので、快適な作業環境を保つために部屋の換気をすることをお勧めいたします。

■水平なところ



■電子機器の近くに設置しないで下さい。

- コンピュータ等の電子機器や精密機器の近くには設置しないでください。電気的な原因やコピー時の振動などにより、悪影響を与えることがあります。
- テレビ、ラジオ等の電子機器の近くに設置した場合、雑音やチラツキ等の受信障害が生じることがあります。別系統の電源を使用し、出来るだけ離して設置してください。

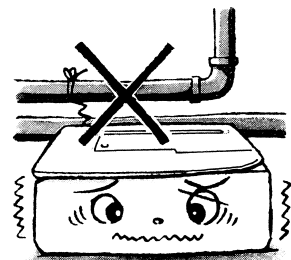
■電源は100V 15A以上のコンセントに接続

- 電源の許容範囲を越える接続は危険です。
- 同じコンセントに他の電気製品を接続しないでください。
- タコ足配線はしないでください。
- 電源コードの上にはなにも載せないでください。
- 万一異常な音がしたり煙が出たりした場合は直ちに電源プラグを抜き、担当のサービスにご連絡ください。
また、いつでも引き抜けるよう、電源プラグのまわりには物を置かないようにしてください。

■感電防止のためアース線を接続してください。(漏電防止のため)

〈アース線を接続してよいもの〉

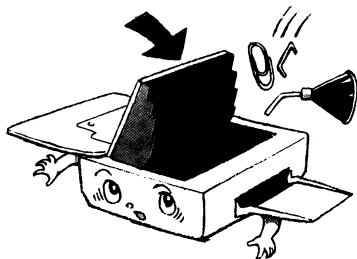
- コンセントのアース端子
 - 銅棒を65cm以上地中に埋めたもの
- 〈アース線を接続してはいけないもの〉
- 水道管……配管の途中がプラスチックになっている場合があり、その場合にはアースの役目をしません。ただし、水道局がアース対象物として許可した水道管にはアース線を接続できます。
 - ガス管……引火・爆発の危険があります。
 - 電話線のアースや避雷針……落雷のときに大きな電流が流れ危険です。



取扱い上のご注意

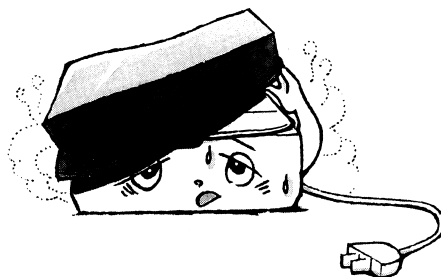
- 原稿台の上に原稿以外のものを置いたり、原稿台を強く押さえつけないでください。
- 原稿の許容荷重は2kgまでです。(1,500ページの電話帳約1冊分)

- 必要な操作が終わり次第すみやかに本体を閉じ、必ず原稿台を中央に戻してください。
- 注油はしないでください。
- 本体内部に異物、特にクリップやホッチキスの針などの金属片を落とさないでください。また、水などの液体をこぼさないでください。これらが危険な電圧部分に接触したり短絡させたりすると、火災や感電の原因になる恐れがあります。



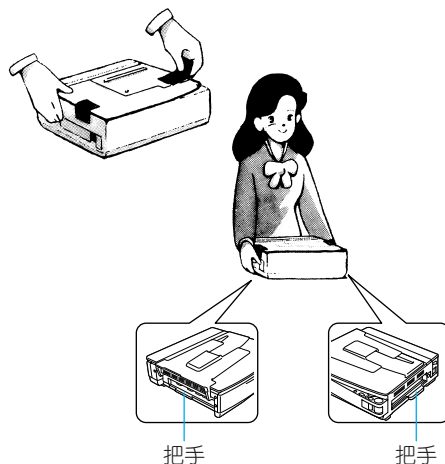
- 万一異常な音がしたり煙が出たりした場合は、直ちに電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜き、担当のサービスにご相談ください。

- 使用後カバー等をかけるときには、電源スイッチを切り、本体が冷えてからかけてください。
- 長時間使用しない場合には、電源プラグを抜いてください。
- ほこりの多い場所、直射日光のあたる場所には置かないようにしてください。



■ 運ぶ時には、以下のようにしてください。

- テープなどで原稿台をとめてください。
- トレイを折りたたみ、本体の裏側より、必ず左右の把手を持ってください。
※給紙口と排紙口には手をかけないでください。
- 自動車で運ぶ場合は、トランク内の水平な安定したところに置いてください。
※トランクの中には想像以上に高温、低温になることがありますので、長時間入れたままにしないでください。
※悪路走行などによる急激な振動は避けてください。
※長距離輸送などで振動が予想される場合は、本体からカートリッジを抜いてください。
※直射日光が当たらないようにしてください。
- 本体をたてのままにしておかないでください。



ご転居のさいは

本機は電源周波数50Hz地域用と60Hz地域用のそれぞれ専用になっています。転居にともない電源周波数が変わりますと、所定の性能が得られなかったり、故障の原因となります。ご転居のさいは、お買い求めの販売店にご相談ください。

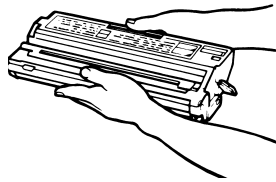
設置手順

『結露』のご注意

気温の低い所から高い所に金属類を持ち込むと、その表面に水滴が付くことがあります。この現象を『結露』と呼び、『結露』した複写機をそのまま使用すると画像が写らなくなることがあります。この場合には、室温に2時間以上放置し、充分になじませてから袋を取り除いてください。

カートリッジ取扱いの注意

カートリッジは図のように注意書き面を上にして持ってください。また持つときは、カートリッジ下部のドラム保護カバーを上から強く押さえたり動かしたりしないでください。



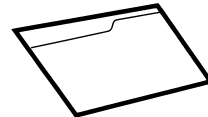
外装箱から付属品を取り出し、確認してください。



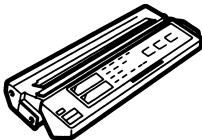
保証書



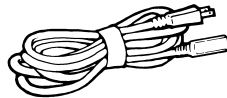
ご愛用の手引き
(本書)



コピーのとりかた
シート



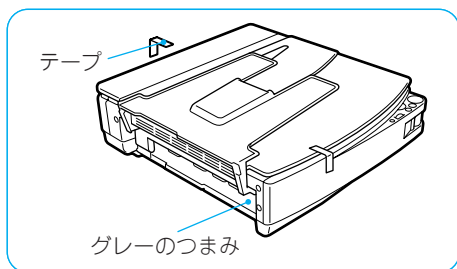
カートリッジ
(本体内にあります)



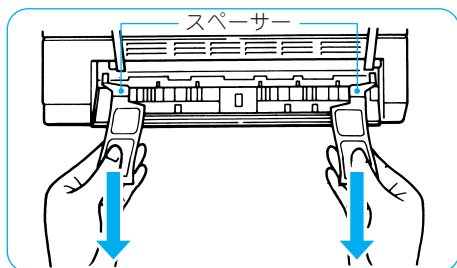
電源コード



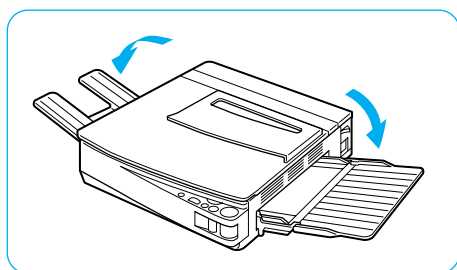
アース線



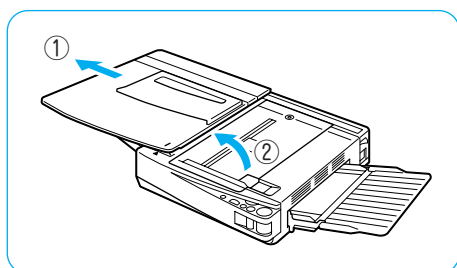
1 袋から本体を取り出し、各部を止めているテープをはがします。



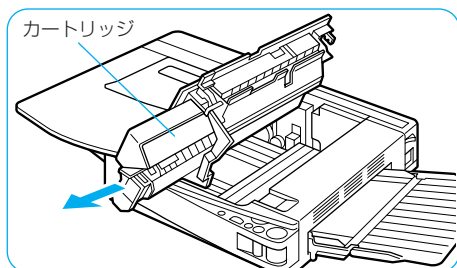
2 グレーのつまみを手前に引いて排紙カバーを開きます。
図のようにオレンジ色のタグをまっすぐに引っ張り、スペーサー（2個）を取り除きます。



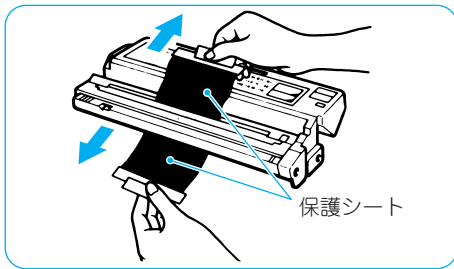
3 排紙カバーを閉じて、左右のトレイを水平な位置に倒します。



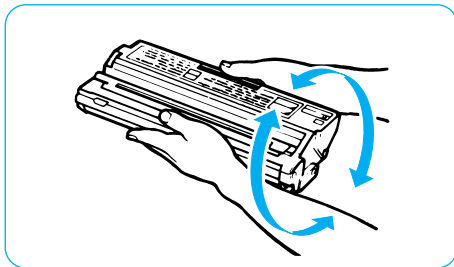
4 原稿台を、左方向にとまるまでスライドさせます。(①)
とまったところで、グレーのレバーを持ち上げて、本体を開きます。(②)



5 カートリッジを本体から引き出します。

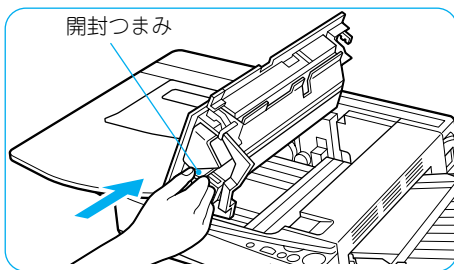


6 テープをはがし、保護シートを取り除きます。

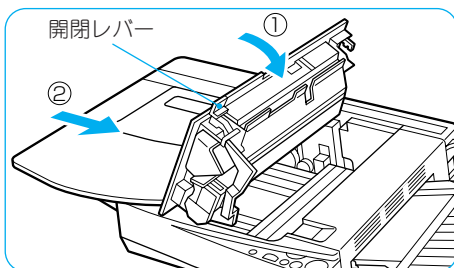


7 カートリッジを水平に持って、両方向に90°くらい数回、回転させます。

●カートリッジは図のように注意書き面を上にして持ってください。また持つときは、カートリッジ下部のドラム保護カバーを上から強く押さえたり動かしたりしないでください。

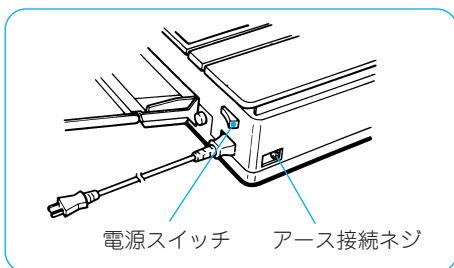


8 本体に突き当たるまでカートリッジを静かに入れたら、そのまま手で押さえ、テープをはがして開封つまみを折り、手前側に強く引いて開封シールを完全に引き抜きます。



9 カートリッジ収納部上部の指示部を押してしっかり閉じます。(①)

●グレーの開閉レバーが水平になるようにしてください。次に原稿台をもとの位置に戻します。(②)



10 アース線を本体右裏にあるアース接続ネジに接続します。(アース接続についての注意は6ページ参照)

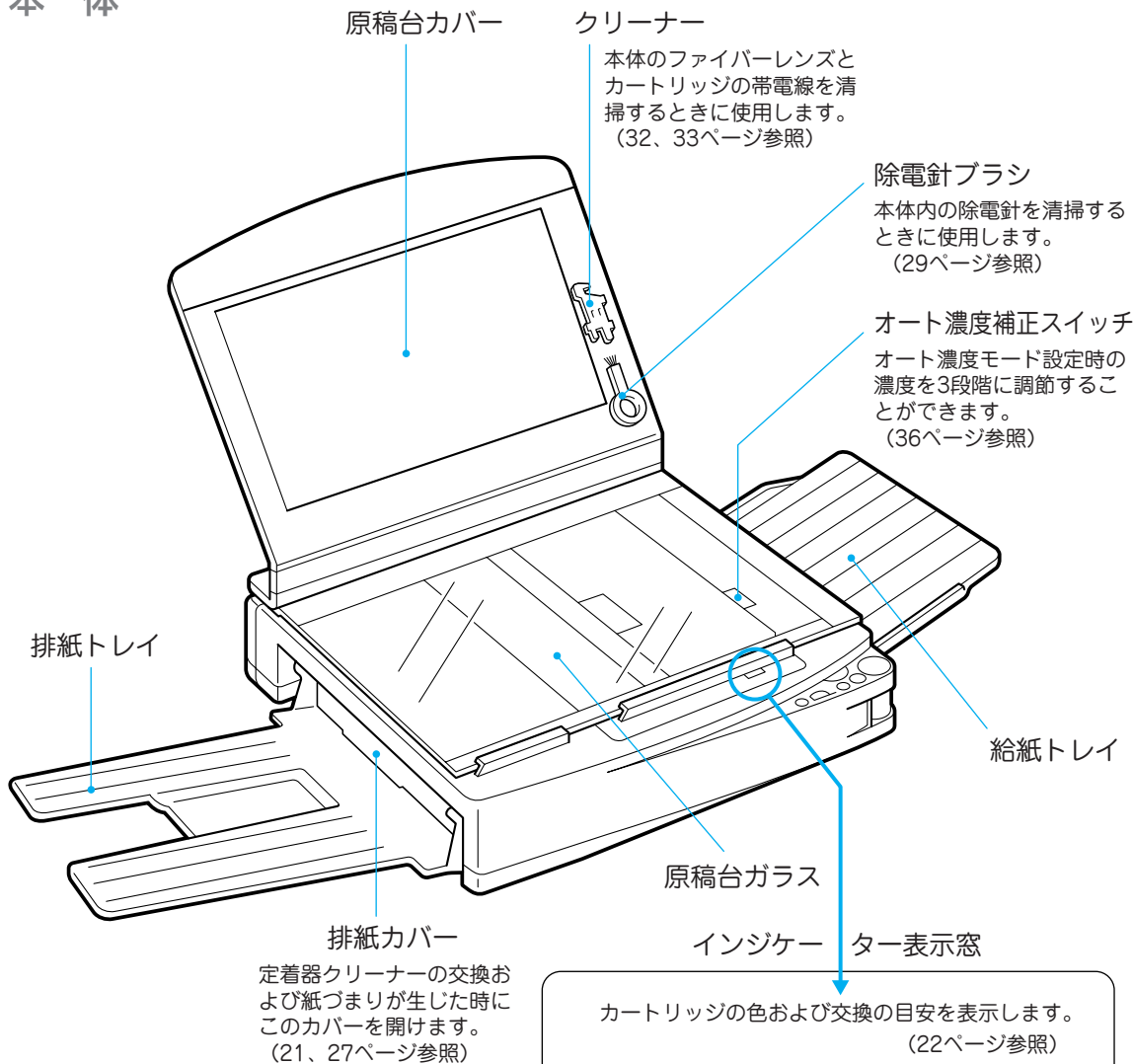
また、本体に電源コードを接続し、電源プラグをコンセントに入れます。

電源スイッチを入れればコピー可能な状態になります。

⚠ 警告 ● 引火や爆発の危険がありますので、アース線をガス管には絶対に接続しないでください。
● 電源は必ず100V 15A以上の専用コンセントに接続してください。

各部のなまえとはたらき

本体



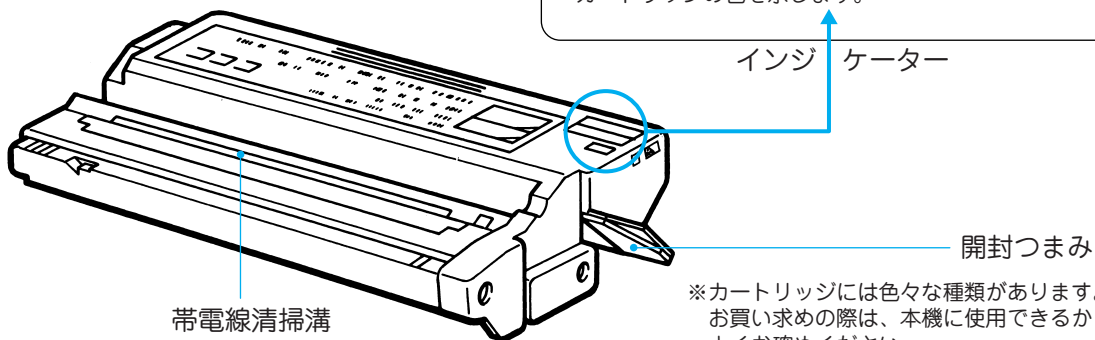
カートリッジ

カートリッジはキヤノンカートリッジBをお使いください。※

カートリッジ交換の目安

- (緑) 使いはじめ
- (黄) 新しいカートリッジ用意
- (赤) 新しいカートリッジと交換

カートリッジの色を示します。



※カートリッジには色々な種類があります。お買い求めの際は、本機に使用できるかよくお確かめください。

開閉レバー

本体を開けるときにこのグレーのレバーを持ち上げます。

カートリッジ収納部

アース端子 (本体右裏)

給紙部圧解除ボタン

(グレーのボタン)
給紙トレイ付近で紙が詰まった際にこのボタンを押しながら紙を取り除きます。
(24、26ページ参照)

電源スイッチ

電源コードソケット

カートリッジ

定着部

給紙ガイド

コピー用紙の幅に合わせてスライドさせます。
(16ページ参照)

(キー・ダイヤル類)

オート濃度キー

オート濃度モード設定時、コピー濃度が原稿濃度に応じて自動的に調節されます。
(オート濃度表示点灯中、オート濃度キーを押すと、オート濃度モードが解除されます。)

コピー濃度調整ダイヤル

オート濃度モードが解除されている時、コピー濃度を手で調節できます。

枚数キー

コピーのセット枚数を増やしたい時に押します。
(16ページ参照)

取消し/中止キー

コピー枚数表示を「1」に戻すとき、また連続コピーを途中で止めるときに押します。

紙づまり表示

本体にコピー用紙が詰まったときに点滅します。
(25～27ページ参照)

オート濃度表示

オート濃度モード設定時、点灯します。
(電源を入れると同時にオート濃度表示します。)

メイン/ウエイト表示

電源を入れた後、この表示が点滅から点灯に変わるとコピーが可能になります。

コピーキー

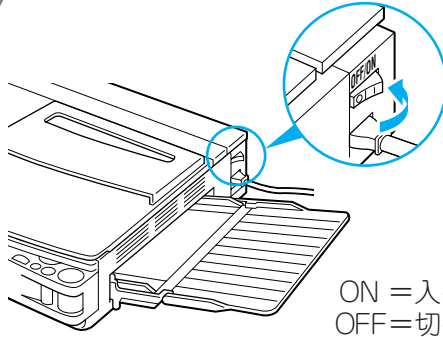
コピーを開始するときに押します。

コピー枚数/ エラーメッセージ表示

コピーのとりかた

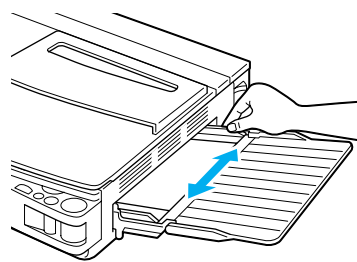
基本的なコピーのとりかた

1 電源スイッチON



2 給紙ガイド調節

給紙ガイドをコピー用紙の大きさに合わせます。

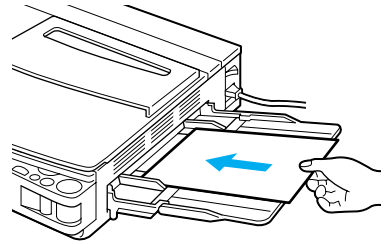


3 コピー用紙セット

用紙が奥までつきあたるようにセットします。

▲注意 コピー用紙を補給するとき、紙づまりを取り除くときは、コピー用紙の端で手を切ったりしないように、注意して扱ってください。

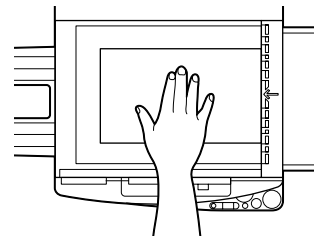
- コピー用紙の高さが5mm (64g/m²紙で約60枚)までセットできます。
- B5サイズ及びB6サイズの内紙と名刺は必ず縦送り(用紙の短辺を先端とした送り)にしてください。はがきは横送りにしてください。往復はがきは折り目を広げた状態で縦送りにしてください。
- OHPフィルムにコピーする場合は18ページをご覧ください。
- はがきの場合はカールをよく伸ばしてからセットしてください。
- はがき等にワープロで印字する場合、先にコピーを行なってください。ワープロで印字してからコピーすると、画像が汚れたり、紙づまりを起こすことがあります。



4 原稿セット

原稿台カバーを上げます。コピーしたい面を下向きにし、原稿台ガラスの指標に合わせてセットします。

▲注意 原稿台カバーは、手を挟まないように静かに閉じてください。けがの原因になることがあります。

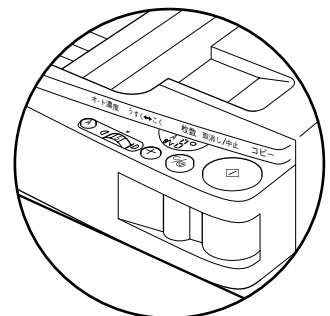


5 コピー枚数セット

+ このキーを押すとセット枚数が増えます(最高9枚)。セット枚数はコピー枚数表示に表示されます。

1 このキーを押すとセット枚数が「1」に戻ります。連続コピー中に押すとコピー動作が止まります。

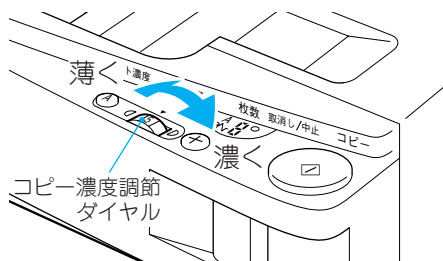
F コピー枚数表示に「9」が表示されているときに、**+**キーを押すと、この表示があらわれます。この場合には、給紙トレイ上のすべての用紙が連続コピーされます(原則として約60枚まで)。排紙トレイ上のコピーは10枚排紙されることに取り除いてください。



6 コピー濃度調節

通常は、オート濃度モードでコピー濃度が自動的に調節されていますが、コピー濃度調節ダイヤルでお好みに応じて、コピー濃度を調節することができます。この際オート濃度モードを解除します。(オート濃度表示A点灯中にオート濃度キーを押すと、オート濃度モードは解除されます。)

- 濃くしたい場合→ダイヤル表示を9の方向へ
- 薄くしたい場合→ダイヤル表示を1の方向へ
(標準状態は「5」)
- 極端に地色が濃い、または全体的に淡い原稿をコピーすると、先端がきれいにでないことがあります。
その場合は、オート濃度モードを解除し、コピー濃度調節ダイヤルで適した濃度に合わせてコピーしてください。
- オート濃度モードは3段階に調節できます。詳しくは36ページをごらんください。



7 コピースタート

メイン/ウエイト表示の状態を確認して、コピーキーを押します。

▶点滅中 ゆっくり点滅(待機中) : コピーキーを押してください。

↓
速い点滅 : コピーキーが押されていることを感知した合図です。

↓
点灯(コピー可能) : 点滅中にコピーキーを押しておく、この時点でコピーを開始します。

▶点灯中(コピー可能)

コピーキーを押すと、原稿台が移動し、コピーを開始します。
※ただし、点灯中でも、コピーキーを押して速い点滅に変わる場合は、再び点灯になるまでしばらくお待ちください。

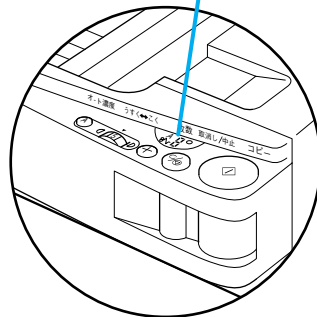
- ▲注意**
- 原稿台よりも大きな原稿をコピーする場合は、原稿のはみ出した部分にご注意ください。原稿が機械の一部に引っかかって破損する恐れがあります。
 - コピー中は原稿台部分に触れないでください。移動している原稿台に挟まれて、けがの原因になることがあります。

☑お願い 長時間使用しないときは電源プラグを抜いておいてください。
コピーをとり終わったら電源スイッチを切ってください。(ただしコピー動作中は、紙づまりの原因となりますので切らないでください)
コピーをとり終わったら原稿台カバーを閉じてください。

重要 しわのある用紙やカールのひどい用紙でコピーしないでください。

参考 室温が低い場合、電源を入れてから複写を開始するまでに時間がかかる場合があります。

メイン/ウエイト表示



- 本機にはオートパワーオフ機能を備えており、コピー操作終了後、約4分間何の操作もしなかった場合、自動的に電源が切れるように設定してあります。

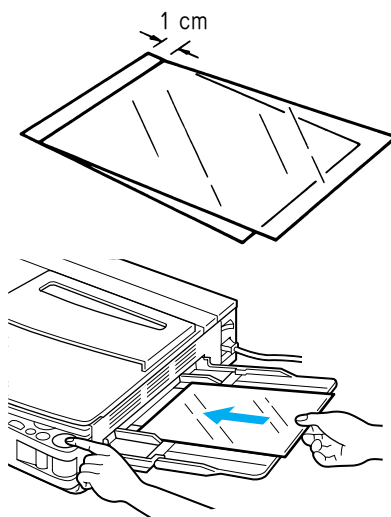
コピーワンポイントアドバイス

OHPフィルムにコピーするとき

- 1枚ずつ給紙トレイにセットしてコピーをとってください。
- 設置環境により、コピーキーを押してもOHPフィルムが機内に送り込まれない場合があります。そのような場合には次の操作を行ってください。

1. 普通紙を下に敷いてOHPフィルムの先端を約1cm後にずらします。
2. 重なった用紙の後端を持ち、給紙トレイ上にセットします。
3. 重なった用紙の後端を持ったままコピーキーを押します。OHPフィルムが送られはじめたら手を放します。

重要 コピーされて出て来たOHPフィルムは、1枚ごとに排紙トレイから取り除いてください。

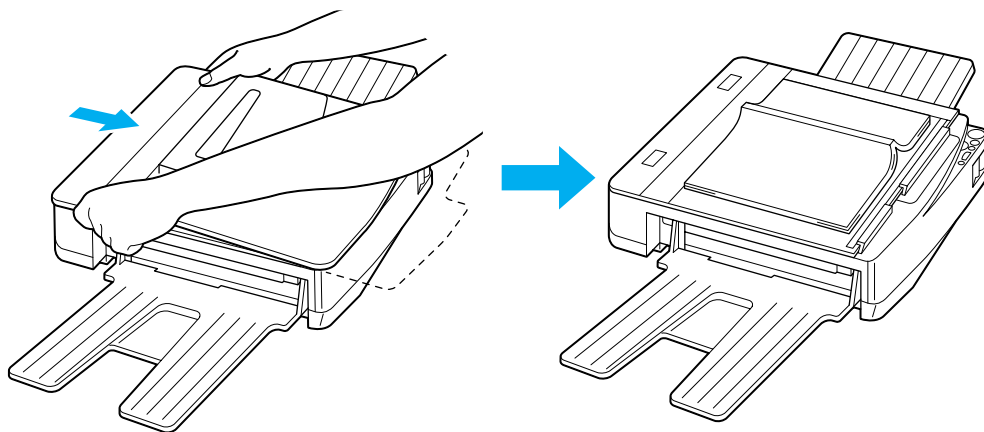


厚い本や大きな原稿をコピーするとき

- 原稿台カバーを以下のやり方ではずします。

1. 図のように、原稿台カバーを少し持ち上げながら、手前に引きます。
2. 原稿台カバーがはずれましたら、原稿を指標に合わせてセットし、コピーします。
(この際、原稿台ガラスの角にご注意ください。)

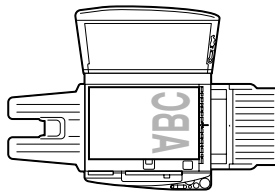
- お願い**
- 原稿を強く押さないでください。
 - 原稿台には2kg(約1,500ページの電話帳1冊分)以上の物を置かないでください。
 - コピー終了後は必ず原稿台カバーを取り付け、閉じてください。



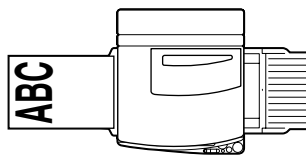
両面コピーのとりかた

うら面コピーをとるときに、原稿の向きとおもて面にコピーされた用紙を裏返す方向に注意してください。あとは基本的なコピーのとりかたと同様です。

- 1 おもて面原稿をセットします。

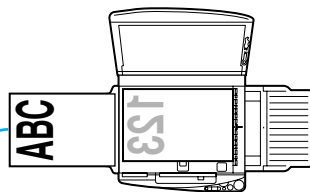


- 2 コピーをとります。



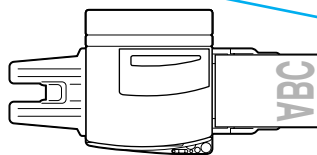
- 3 うら面原稿をセットします。

- ポイント
原稿の上端がおもて面原稿のときと逆向きになるようにセットします。

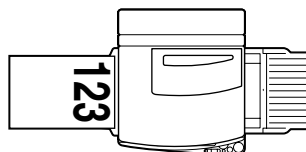


- 4 おもて面にコピーされた用紙を裏返して給紙トレイ上にセットします。

- ポイント
コピー用紙は手前側と奥側をかえずに裏返します。

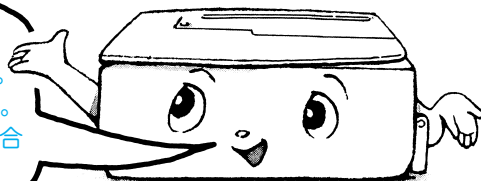


- 5 うら面にコピーをとります。



FC20からのお願い

- 両面コピーには60～128g/m²の用紙を使用してください。
- コピー用紙のカールをよく伸ばしてからセットしてください。
- うら面（2面目）の先端が汚れることがあります。その場合は、コピー用紙を重ねずに1枚ずつコピーしてください。



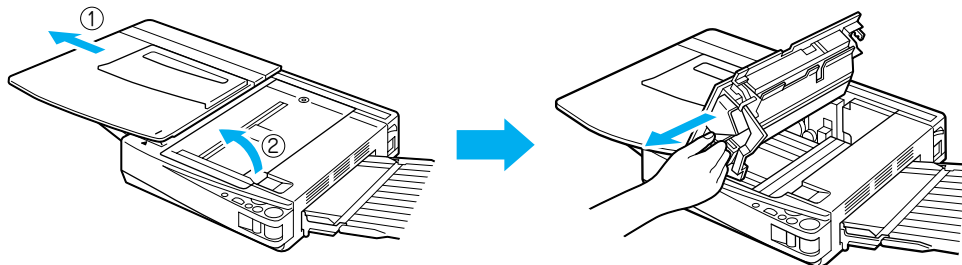
消耗品の交換とその保管

消耗品の交換とその保管

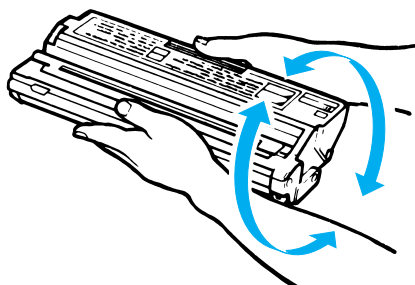
カートリッジの交換

カートリッジは、この機種専用のキヤノンカートリッジBをお使いください。

- 1 原稿台を、左方向にとまるところまでスライドさせます。(①)
グレーのレバーを持ち上げて本体を開きカートリッジを本体から引き出します。(②)



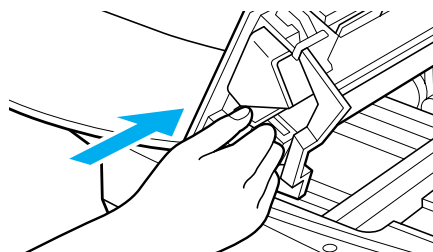
- 2 交換するカートリッジを水平に持って、両方向に90°くらい数回、回転させます。
*交換するカートリッジが新しい場合には、「カートリッジ交換」の説明書にしたがいテープをはがし保護シートをとりぬぎます。



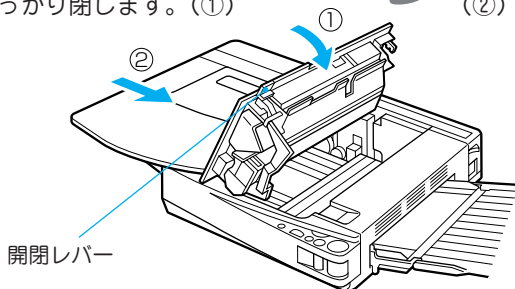
- 3 本体に突き当たるまでカートリッジを静かに入れます。
*交換するカートリッジが新しい場合には、開封つまみを折り、手前側に引いて開封シールを完全に引きはがします。

⚠ 注意

シールにはトナーが付着していますので、衣服などに触れないようにご注意ください。衣服や手が汚れた場合は、直ちに水で洗い流してください。



- 4 カートリッジ収納部上部の指示部を押してしっかり閉じます。(①)



- グレーの開閉レバーが水平になるようにしてください。

- 5 原稿台をもとに位置に戻します。(②)

- 手をはさまないように注意してください。

⚠ 警告 使用済みカートリッジについて

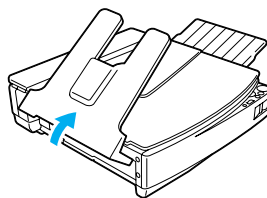
使用済みカートリッジを火中に投じないでください。カートリッジ内部に残っているトナーに引火して、カートリッジが燃えて、やけどや火災の原因になります。なお、使用済みのカートリッジの回収については、「カートリッジの回収についてのご案内」(→P.22)をご覧ください。

定着器クリーナーの交換

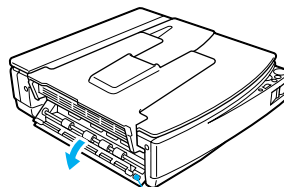
新しいカートリッジと交換するさいには、定着器クリーナーもカートリッジと同梱包の新品と交換してください。

定着器周辺にはヒーターがあり高温になりますので、電源スイッチを切り、機械が十分冷えてから交換を行ってください。

- 1 排紙トレイを折りたたみます。



- 2 グレーのつまみを手前に引いて排紙カバーを開きます。

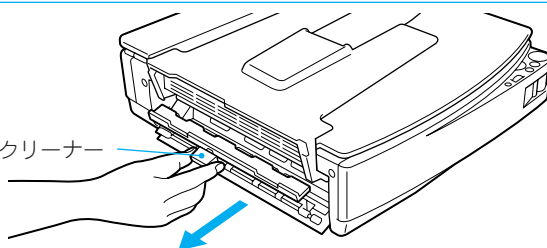


グレーのつまみ

- 3 黒つまみを持って手前に引き、使用済の定着器クリーナーを取り出します。

- 排紙カバー内側と本体内部の突起にご注意ください。

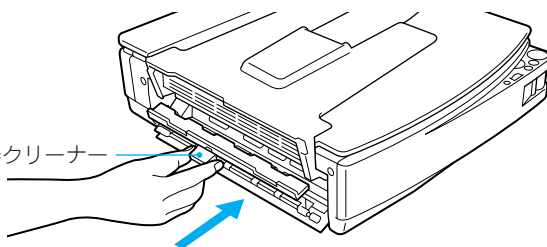
定着器クリーナー



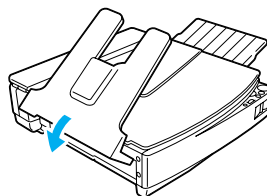
- 4 新しい定着器クリーナーをしっかりとセットします。

- 両サイドの金属ガイドに沿って、奥までしっかりとはめてください。

定着器クリーナー

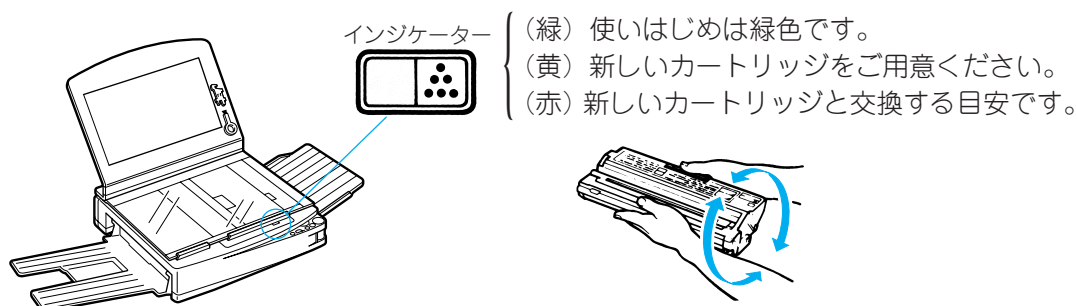


- 5 排紙カバーを静かに閉じ、排紙トレイをもとに戻します。



新しいカートリッジとの交換目安

カートリッジ交換の目安はインジケータの色でお知らせします。



- カートリッジBブラックの場合、A4：4%標準原稿*で約5,000枚、A4：6%標準原稿で約3,300枚のコピーがとれます。
*A4：4%（6%）標準原稿とはA4サイズを100%とした場合にベタ部分が4%（6%）に相当する原稿のことをいいます。
- 写真やベタ部分の多い原稿（A4：6%標準原稿以上）のコピーをたくさんとった場合や、原稿台カバーを開いてコピーをとった場合には、カートリッジ内のトナーの消費量が多くなるためインジケータが赤になる前に部分的に画像が薄くなり、コピーがとれなくなることがあります。
- 交換の前にカートリッジを水平に持って両方向に90°くらい数回、回転させると、コピーがとれることがあります。

⚠ 警告 使用済みカートリッジについて

使用済みカートリッジを火中に投げないでください。カートリッジ内部に残っているトナーに引火して、カートリッジが燃えて、やけどや火災の原因になります。なお、使用済みのカートリッジの回収については、「カートリッジの回収についてのご案内」下記をご覧ください。

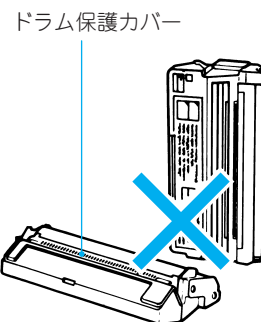
カートリッジ回収についてのご案内

キヤノンでは、地球をとりまく環境保全と資源の有効活用を行なっていくために、お客様ご使用済みカートリッジの回収を推進しております。つきましては、ご使用済みとなったカートリッジをお買い求めの販売店にお持ちいただければ幸いです。主旨ご理解のうえ、お客様のご協力をお願い申し上げます。

カートリッジの取扱い・保管

きれいなコピーをおとりいただくために、以下のことにご注意ください。

- 幼児の手に触れないところに保管してください。
- 立てたり逆さまに置かないでください。（注意書き面を上にして置いてください。）
とくにドラム保護カバーを上から強く押さえたり、動かしたりしないでください。
- 直射日光を避け、40℃以下で保管してください。
- 気温の低い所から高い所に持ち込んだ場合には、室温に2時間以上放置し、充分になじませてから使用してください。
- 衝撃を与えないように注意してください。



コピー用紙

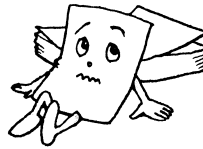
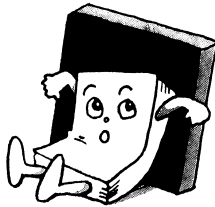
本機では、コピー用紙のほかに、はがき／往復はがき／OHPフィルムなどがご使用になれます。なお、市販されている用紙のなかには本機に適さないものもあるので、ご使用の際は、お買い求めの販売店にご相談ください。最良な状態でコピーをするためには、キヤノン推奨の用紙やOHPフィルムをご使用ください。

上手な保管



- コピー用紙は、湿気の少ない、直射日光の当たらない場所に保管してください。開封後の残りのコピー用紙は包装紙に包んで保管してください。

- 用紙は立てかけずに、水平に保管してください。



- コピーをとった後は、トレイ上に紙を置いたままにしないでください。



- 折りやしワのある用紙は使わないでください。

次のような用紙にはコピーしないでください。紙づまり、印字はがれ、故障などの原因となります。

- 大きくカールした用紙やしわのある用紙
- 薄いわら半紙
- デジタルカラー複写機専用のOHPフィルム
- カラーコピーした用紙（裏面にもコピーしないでください。）
- 熱転写プリンターで印字した用紙（裏面にもコピーしないでください。）
- 他の複写機やプリンターで出力した用紙（裏面にもコピーしないでください。）

P が点灯したとき（紙補給／紙送り点検）

▲注意 コピー用紙を補給するとき、紙づまりを取り除くときは、コピー用紙の端で手を切ったりしないように、注意して扱ってください。

P が点灯

給紙トレイ上に用紙がありますか？

いいえ

はい

紙補給

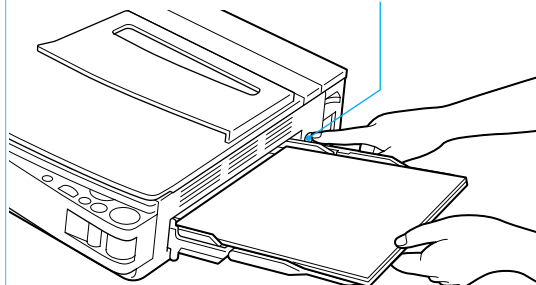
コピー用紙を給紙トレイ上にセットします。

紙送り点検

グレーの給紙部圧解除ボタンを押しながらすべてのコピー用紙をいったん給紙トレイから取り出します。コピー用紙を揃え直してから給紙トレイにセットします。

- 紙が奥まで入っていない場合にも **P** が点灯します。
- 給紙トレイ付近で紙づまりが頻発する場合は、給紙ローラーを清掃してください。（28ページ参照）

給紙部圧解除ボタン



給紙部圧解除ボタンを押してもコピー用紙を取り出せない場合は、本体を開き（12ページ参照）、本体内部から紙の進行方向に沿って用紙を取り除きます。

コピーキーを押します。

P の点灯は消え、残りのコピー枚数がコピーされます。
（本体を開けた場合は必要なコピー枚数を設定し、コピーキーを押します。）

8V が点滅したとき（紙づまり）

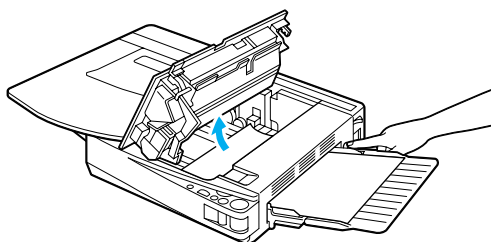
- ⚠ 注意**
- 機械内部には定着器など高温、高圧になる部分があります。紙づまり処理など内部を点検するときは、これらの部分に触れないように点検してください。やけどや感電の原因となることがあります。
 - 紙づまりの処理など内部を点検するときは、ネックレス、プレスレットなどの金属物が機械内部に触れないように点検してください。やけどや感電の原因になることがあります。
 - 紙づまりでコピー用紙を機械内部から取り除くときは、紙づまりしているコピー用紙の上ののっているトナーが衣服や手に触れないように取り除いてください。衣服や手が汚れます。衣服や手が汚れた場合は、直ちに水で洗い流してください。温水で洗うとトナーが定着し、汚れがとれなくなることがあります。
 - 紙づまりでコピー用紙を機械内部から取り除くときは、紙づまりしているコピー用紙の上ののっているトナーが飛び散らないように、丁寧に取り除いてください。トナーが目や口に入ることがあります。トナーが目や口に入った場合は、直ちに水で洗い流し、医師と相談してください。
 - コピー用紙を補給するとき、紙づまりを取り除くときは、コピー用紙の端で手を切ったりしないように、注意して扱ってください。

が点滅

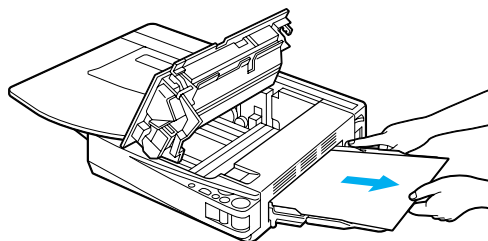
(電源スイッチを ↓ 切ってください)

原稿台を左にずらして、本体を開けます。(12ページ参照)

給紙部 (給紙トレイ付近) につまんでいるとき



給紙部に用紙がつまんでいるときには、グレーの給紙部圧解除ボタンを押しながら紙の進行方向に沿って用紙を取り除きます。



紙の進行方向に沿って引けないときは、給紙部圧解除ボタンを押しながら、トレイ側から引いて取り除きます。

- 給紙部で紙づまりが頻発する場合は給紙ローラーを清掃してください。(28ページ参照)

電源スイッチを入れてください。

必要枚数をセットして、コピーキーを押します。

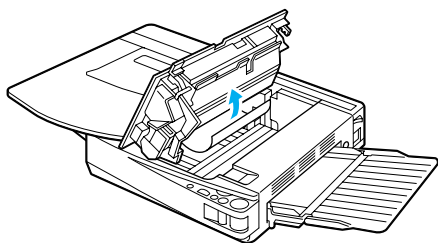
- 紙づまり処理後のコピー数枚は、裏面が汚れることがあります。
- 紙づまり処理後は、すみやかに静かにカバーを閉じてください。

84 が点滅

(電源スイッチを ↓ 切ってください)

原稿台を左にずらして、本体を開けます。(12ページ参照)

定着部 (給紙トレイよりも奥) につままっているとき

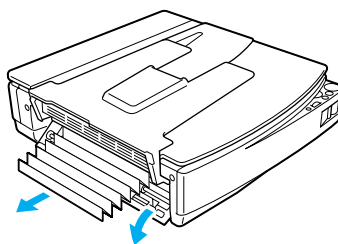


定着部に用紙がつままっているときには、図の矢印の方向に引いて用紙を取り除きます。

▲ 注意 機械内部には定着器など高温、高圧になる部分があります。紙づまりの処理など内部を点検するときは、これらの部分に触れないように点検してください。やけどや感電の原因になることがあります。

- 定着部で紙づまりが頻発する場合は除電針を清掃してください。(29ページ参照)

紙が本体内部に見えないとき



紙が本体内部に見えないときには、排紙トレイを折りたたみ、排紙カバーを開き、用紙を取り除きます。

電源スイッチを入れてください。

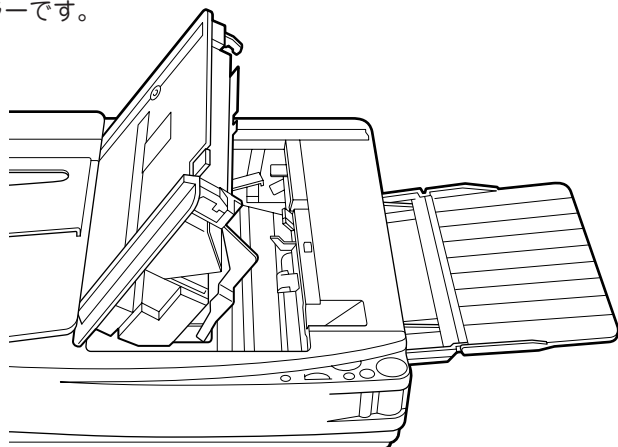
必要枚数をセットして、コピーキーを押します。

- 紙づまり処理後のコピー数枚は、裏面が汚れることがあります。
- 紙づまり処理後は、すみやかに静かにカバーを閉じてください。

給紙ローラーの清掃（給紙部で紙づまりが頻発する場合）

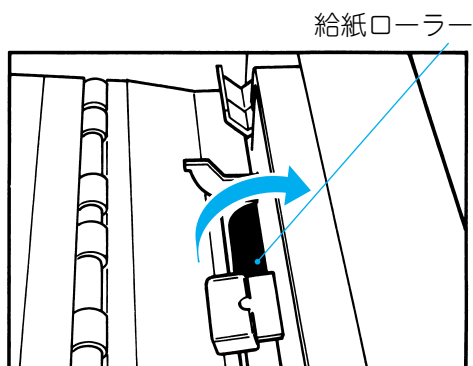
⚠注意 清掃のときは、電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いてください。火災や感電の原因になります。

1 本体をあけると右下に幅約4cmの黒いローラーが見えます。それが給紙ローラーです。



2 給紙部圧解除ボタンを押しながら、アルコールを含ませ、固くしぼった布で給紙ローラーを矢印の方向に回転させながら拭きます。

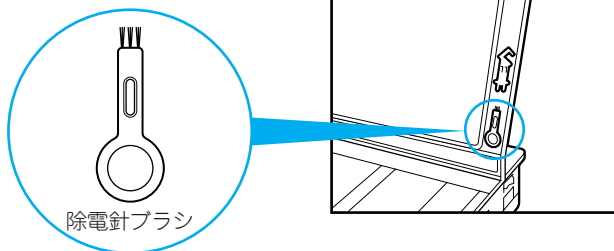
- アルコールがない場合には、水でもかまいません。それ以外の溶剤はつかわないでください。



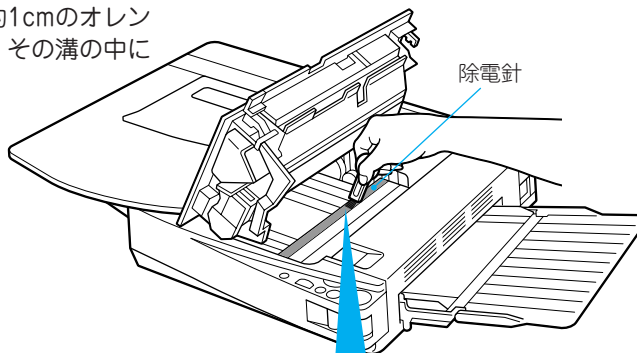
除電針の清掃 (定着部で紙づまりが頻発する場合)

- ▲注意** 清掃のときは、電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いてください。
火災や感電の原因になります。

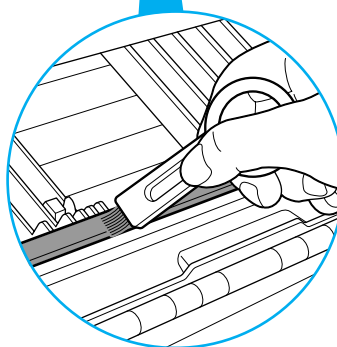
- 1** 原稿台カバーの裏にある除電針ブラシをとり出します。



- 2** 本体を開くと、本体の中に幅約1cmのオレンジ色の細長い部分があります。その溝の中に除電針があります。

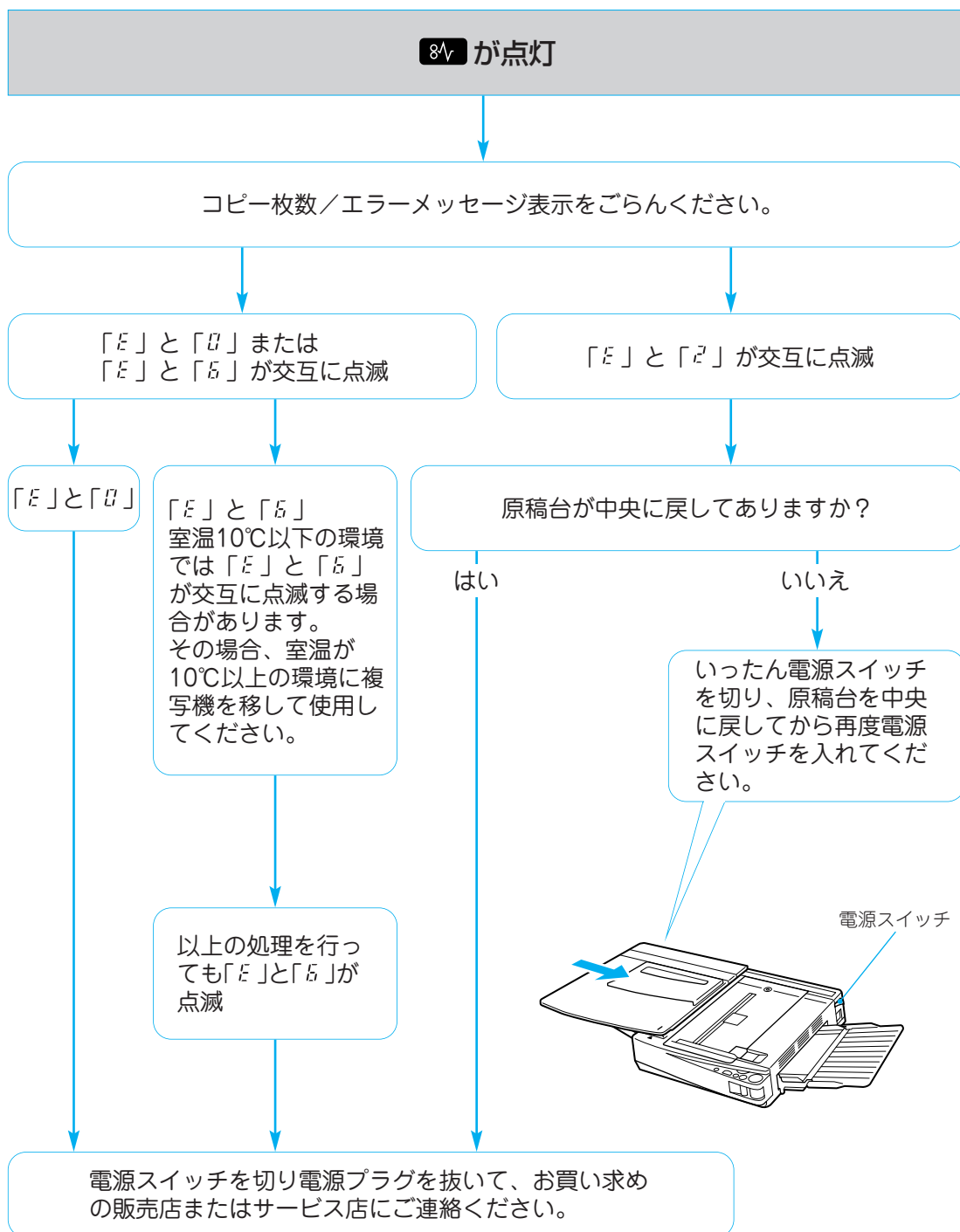


- 3** オレンジ色の溝の部分に除電針ブラシをあて、溝から汚れを掃き出してください。その際、斜めにはってある透明な糸を切らないように注意してください。



⚡ が点灯したとき (E表示)

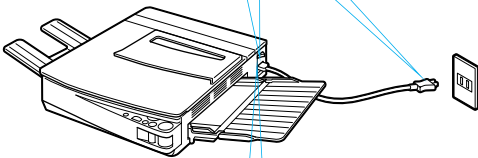
- ⚠ 注意**
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因になります。
 - 電源プラグを抜くときは、必ず電源プラグを持って抜いてください。電源コードを引っばると、電源コードの芯線の露出、断線など電源コードが傷つき、その部分から漏電して、火災や感電の原因になることがあります。



機械が正常に動作しないとき

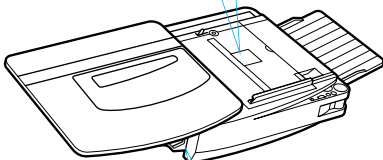
機械が動かない

電源プラグが抜けて
いませんか？



電源スイッチが入
っていますか？

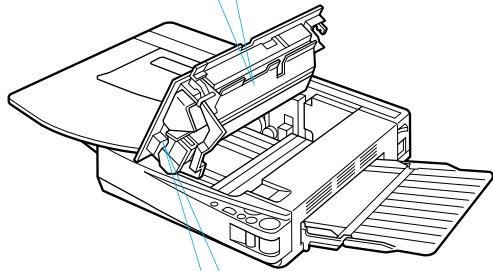
本体を確実に閉じ
ていますか？



排紙カバーを確実に
閉じていますか？

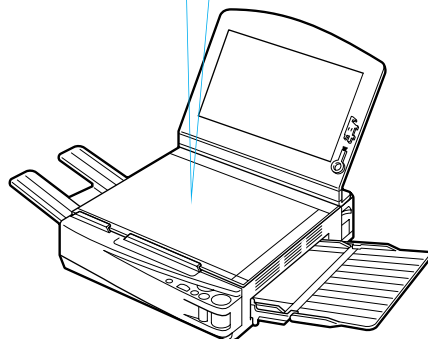
画像が出ない

カートリッジが本体
に入っていますか？



カートリッジの開
封シールがはがれ
ていますか？

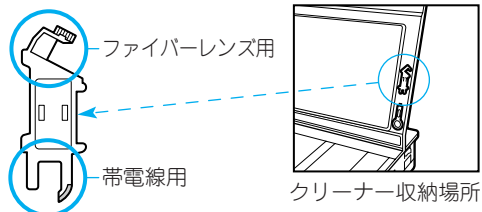
原稿がセットされ
ていますか？



きれいなコピーがとれないとき

コピー面が帯状に汚れる

原稿台カバーの裏にあるクリーナーを取り出します。



カートリッジの帯電線を清掃してください。

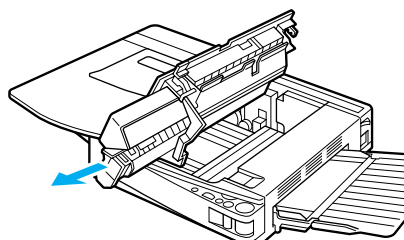
ファイバーレンズを清掃してください。(次ページ参照)

コピーの裏または先端が黒くよごれるときは、転写ガイドを清掃してください。(35ページ1、2参照)

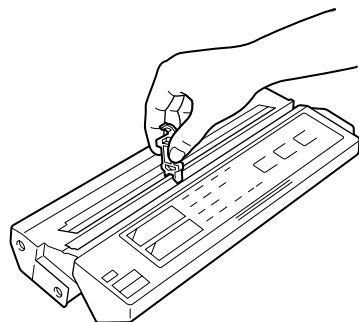
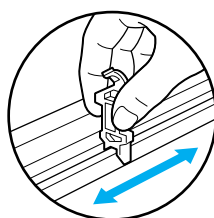
カートリッジ帯電線の清掃

⚠ 警告 清掃のときは、電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いてください。火災や感電の原因になります。

1 カートリッジを本体から引き出します。



2 カートリッジの帯電線清掃溝にクリーナーを差し込み、端から端まで動かします。

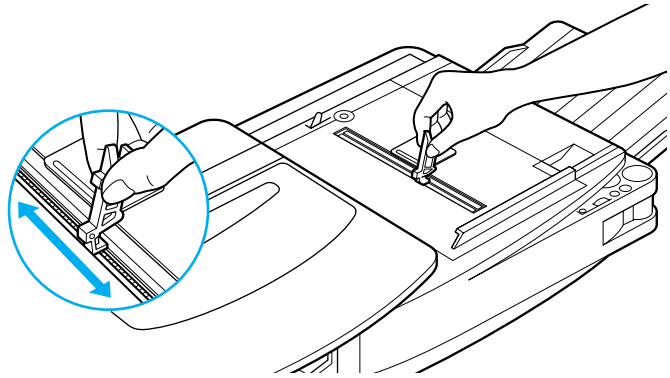
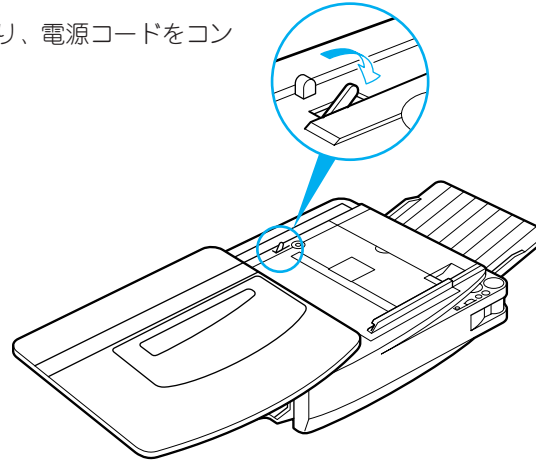


ファイバーレンズの清掃

- ▲ 警告** 清掃のときは、電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いてください。
火災や感電の原因になります。

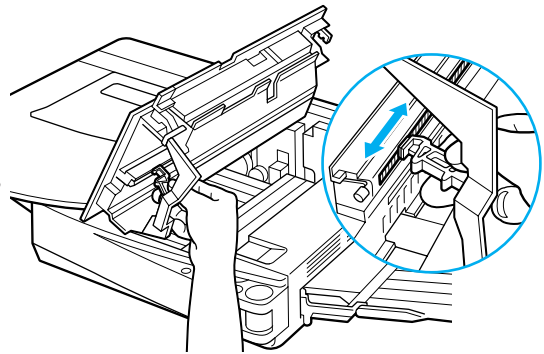
1 ファイバーレンズ（表側）の清掃

- 原稿台を左にずらしていくと、溝があります。
- 溝のそばにある緑色のレバーを右に押し、たおし溝の上のシャッターを開けます。
- シャッターを開けると線状に並んだファイバーレンズが見えますのでクリーナーをたてて端から端まで動かしてファイバーレンズを清掃します。



2 ファイバーレンズ（裏側）の清掃

- 本体を開けカートリッジを取り出します。
- カートリッジ収納部に1で清掃したファイバーレンズと同形の線状のレンズが見えますので同様にクリーナーを当てて端から端まで動かして清掃します。



コピー面に白スジ／帯状に薄くなる

カートリッジを本体から引き出し、水平に持って両方向に90°くらい数回、回転させます。

インジケータが赤になっていますか？

はい

上記のように回転させても画像が直らない場合は、新しいカートリッジと交換してください。(20ページ参照)

いいえ

カートリッジの帯電線を清掃してください。(32ページ参照)

本体の転写ガイドと帯電線を清掃してください。(次ページ参照)

除電針を清掃してください。(29ページ参照)

* 新品のカートリッジでは使い始めに白いスジがでることがありますが、使用後しばらくするとなくなります。

** 濃い原稿や文字の多い原稿をたくさんとった場合や原稿台カバーを開けてコピーをとった場合には、インジケータが赤になる前に画像が薄くなり、コピーがとれなくなることがあります。この場合には新しいカートリッジと交換してください。

転写ガイドと本体帯電線の清掃

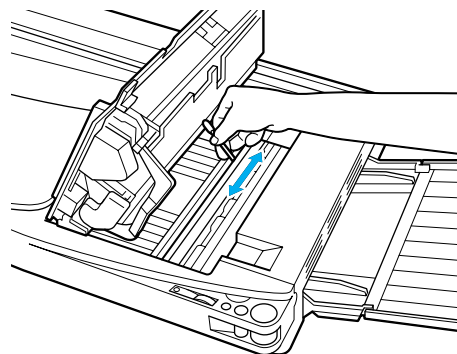
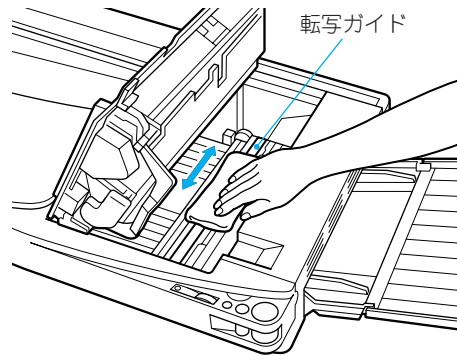
▲注意 清掃のときは、電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いてください。火災や感電の原因になります。

1 本体を開けると、幅2cmくらいの金属板が下に見えます。それが転写ガイドです。

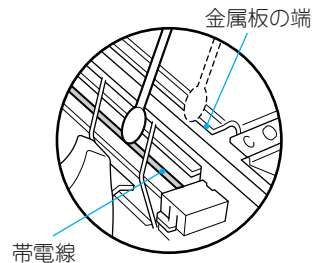
2 固くしぼった布で、転写ガイドを清掃します。そのあと、からぶきしてください。

3 正面から見て、転写ガイドの左側にある溝の中に1本はってある線が帯電線です。

4 市販されている綿棒で帯電線を拭き、次に転写ガイドの端部を軽く拭きます。



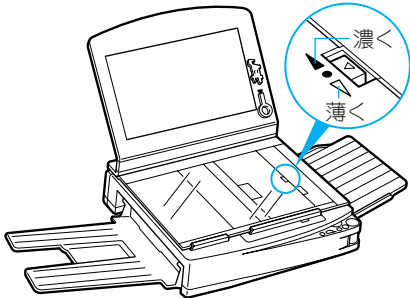
- 帯電線を切らないように注意してください。
- 斜めにはってある糸を切らないように注意してください。



オート濃度モード設定時
コピー面全体が薄すぎる／濃すぎる

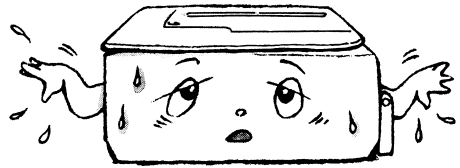
オート濃度補正スイッチでオート濃度モード設定時のコピー濃度を3段階に調節できます。

- 全体的にもっと濃くしたい⇒奥へ
- 全体的にもっと薄くしたい⇒手前へ
(通常はまん中に合わせておきます)



コピー面が黒くなる

気温の低い所から高い所に機械を持ち込んだり、急激に部屋の温度を上げると、機械内部に水滴がつくことがあります(結露現象)、このような状態でコピーをとると、原稿の画像が写らずにコピー面が黒くなることがあります。このためコピーをとる前には、室温に2時間以上放置し、充分になじませてから使用してください。



以上の処理を行っても機械が正常に動かない／きれいなコピーがとれない場合は、次ページの「パーソナル商品修理受付票」にご記入のうえ、お買い求めの販売店またはサービス店にご連絡ください。

修理をご依頼されるときは

■ 修理をご依頼の際は、下記の「パーソナル商品 修理受付票」のコピーにご記入し、点線にそって切り取ったものをコピー機本体といっしょに、お買い求めの販売店、または当社（別紙の「パーソナル向けコピーサポートガイド」をご覧ください。）までご持参あるいはお送りください。（参照「保証および保守サービス」→P.41）

----- (切り取り線) -----

パーソナル商品 修理受付票

フリガナ
お客様のお名前 :
ご住所 : (宅配のご利用の場合は、修理後の商品を返送する住所をご記入下さい)
〒
電話番号 :
製品名 : 機番 :
お買い上げ日 : 年 月 日
故障した日 : 年 月 日
保証期間 : 期間中 / 期間切れ (どちらかに○をお付け下さい)
(保証期間中の保証書は、必ず商品に添付、または商品と一緒に持ち下さい)
故障内容 : (どのようにご使用のときに)

(どのような不具合がありますか)

お客様からのご連絡 (ご自由にお使い下さい) :

お買い上げいただいた販売店 :
販売店の住所 : 〒
電話番号 :

Copyright © Canon Marketing Japan Inc.

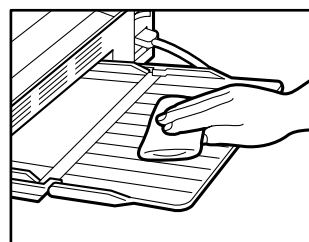
(切り取り線)

日常の清掃

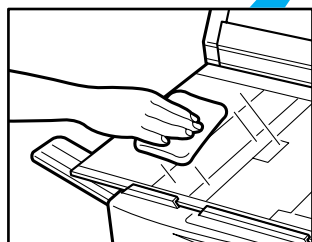
- ▲警告**
- 清掃のときは、電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いてください。火災や感電の原因になります。
 - 清掃のときは、中性洗剤を含ませて固くしぼった布を使用してください。アルコール、ベンジン、シンナーなどの引火性溶剤は使用しないでください。引火性溶剤が機械内部の電気部品などに接触すると、火災や感電の原因になります。
- 中性洗剤をふくませ、固くしぼった布で汚れを落とした後、から拭きしてください。
※水・中性洗剤以外のものは使用しないでください。
- 外装カバーを清掃するときも同様に行ってください。



原稿台カバー



給紙トレイ



原稿台ガラスの表面／裏面

FC20の仕様

1. 形 式	: デスクトップタイプ
2. 原稿台方式	: 移動式
3. 感光体種類	: OPC (有機半導体)
4. 複写方式	: 間接静電転写方式
5. 現像方式	: ジャンピング現像方式
6. 定着方式	: ヒートローラー方式
7. 複写原稿	: 最大B4サイズまでのシート・本・立体物 (最大2kgまで)
8. 複写用紙	: 紙厚: 50g/m ² ~128g/m ² 紙 普通紙・OHP用紙・第二原図用紙・ラベル紙・カラーペーパー・厚手紙 (128g/m ² まで) ・郵便はがき・名刺
9. 複写サイズ	: B4サイズ~名刺サイズ (88×51mm以上)
10. 画像欠け幅	: 先端2mm
11. ウォームアップタイム	: 約30秒 (室温20℃)
12. ファーストコピータイム	: 22秒 (A4縦送り)
13. 連続複写速度	: 8枚/分 (A4) ・6枚/分 (B4)
14. 複写倍率	: 1:1±0.6%
15. 給紙方式	: マルチ手差し給紙 (64g/m ² の普通紙で約60枚まで)
16. 連続複写	: 9枚まで F機能使用時は給紙トレイ上のすべての用紙につき連続複写が可能 (64g/m ² の普通紙で約60枚まで)
17. 電 源	: 100V, 15A, 50Hz、60Hz (50Hz、60Hz地域用は別々)
18. 最大消費電力	: 0.98KW
19. エネルギー消費効率	: 50Hz: 17Wh/h ・ 60Hz: 17Wh/h
20. 大 き さ	: 43.3cm (幅) ×47.3cm (奥行) ×15.7cm (高さ)
21. 重 量	: 16.8kg (カートリッジ1.45kgを含む)
22. 機械占有寸法	: 95.8cm (幅) ×47.3cm (奥行)

製品改良のため記載事項が一部変更になることがありますのでご了承ください。
現在市販されている用紙にはいろいろな種類のものがあり、なかには本機に適合しないものもあります。ご使用のさいには、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

付属品・消耗品

▲ 警告 カートリッジを火中に投げないでください。カートリッジ内部に残っているトナーに引火して、カートリッジが燃えて、やけどや火災の原因になります。

▲ 注意

- カートリッジ、コピー用紙は火気のある場所に保管しないでください。トナーやコピー用紙に引火して、やけどや火災の原因になります。
- カートリッジなどの消耗品は幼児の手が届かないところへ保管してください。もしカートリッジ内のトナーを飲んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

● 付属品 (本体に 含まれる)	給紙トレイ	×1	電源コード	×1
	排紙トレイ	×1	アースコード	×1
	クリーナー(ファイバーレンズ/帯電線用)	×1	カートリッジB	×1
	除電針ブラシ	×1	コピーのとりかたシート	×1
	● 消耗品	コピー用紙/カートリッジB		

保証および保守サービス

-
- **保証書** 製品には保証書が添付されています。所定事項の記入および記載内容をご確認のうえ、大切に保管してください。
万一の故障のさいの本体無償修理期間は1年間です。但し、カートリッジ不良の場合は除きます。

 - **保証内容** 保証内容は保証書に記載されていますのでご確認ください。

 - **部品の保有期間** 補修用性能部品（製品の性能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は本体製造打切り後7年です。

 - **保守サービス** 本機を良好な状態でご使用いただくために、2種類の保守サービスを用意しました。
（詳細は販売店にお問い合わせください）
 - ① **スポットサービス方式**
お客様のご要請に応じて、そのつど有料で保守サービスをお受けいたします。
 - ② **年間保守契約方式**
一定の年間保守料金で、機械（カートリッジを除きます）が故障した場合の保守サービス、ならびに必要な場合の部品交換をお引き受けいたします。

 - **お願い** 機械の故障等でサービス担当にお問い合わせのさいには、37ページの『パーソナル商品修理受付票』を参照し、故障内容を詳しくお知らせください。

- 本商品、ならびに関連する消耗品、サービス役務等につきましては、別途消費税を申し受けますのでご了承ください。
- その他アフターサービス等につきましてご不明な点がございましたら、お買い求めの販売店またはキヤノンのサービス窓口にお問い合わせください。

コピー禁止事項

複写機で、何をコピーしてもよいとは限りません。特に法律によって、単にそのコピーを所有するだけでも罰せられるものもありますので、ご注意ください。

1. 法律で禁止されているもの

- 紙幣、貨幣、政府発行の有価証券、国債証券、地方債証券はコピーすることを禁止されています。たとえ、見本の印が押してあってもコピーすることはできません。
- 外国において流通する紙幣、貨幣、証券類のコピーも禁止されています。
- 政府の許可をとらない限り、未使用郵便切手、官製はがき類をコピーすることは禁止されています。

2. 注意を要するもの

- 民間発行の有価証券（株券、手形、小切手など）、定期券、回数券などは、事業会社が業務に供するための最低必要部数をコピーする以外は、政府の指導によって、注意を呼びかけられています。
- 政府発行のパスポート、公共機関や民間団体発行の免許証、許可証、身分証明証や通行券、食券などの切符類も許可なしにコピーしないでください。

〔関係法律〕○刑法

- 通貨及証券模造取締法
- 外国ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券証券偽造変造及模造ニ関スル法律
- 郵便法
- 郵便切手類模造等取締法
- 印紙犯罪取締法
- 印紙等模造取締法

3. 著作権の目的となっているもの

書籍、音楽、絵画、版画、地図、図面、映画および写真などの著作物は、個人的または、家庭内その他これに準ずる限られた範囲で使用するためにコピーする以外は禁じられています。



パーソナル向けコピー（ファミリーコピー・ミニコピー）に関するご質問・ご相談は、下記の窓口をお願いいたします。

お客様相談センター（全国共通番号）
050-555-90023

【受付時間】 〈平日〉 9：00～20：00
〈土日祝日〉 10：00～17：00
（1/1～1/3は休ませていただきます）

※上記番号をご利用いただけない方は（043-211-9333）をご利用ください。
※IP電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによってつながらない場合があります。
※受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

消耗品のご注文先

販売店

電話番号

担当部門

担当者

サービス担当者 連絡先

販売店

電話番号

担当部門

担当者



自然環境保護に協力しています。
キヤノングループは、自然環境の保護と資源の有効活用を推進するために、お客様ご使用済みのカートリッジ回収を推進しております。

Canon

キヤノン株式会社

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

〒108-8011 東京都港区港南2-16-6